

スーパーデイようざんミニ事例集

自宅に閉じこもりがちな方の相談ケース

自宅からスーパーデイの利用に繋がるまで

要旨:A様(女性・介護度2 元看護婦長)A様と初めてお会いしたのはH24年6月 まだ利用が始まって日が浅いですがA様は既にスーパーデイようざんの中でご自分の「居場所」を確保し毎日生き生きとご自分の「役割」を得て楽しく有意義な毎日を過ごされています。(現在週6回利用中)



在宅介護支援センターの担当者の方より、なかなか出掛ける事が難しく自宅に閉じこもっている状態で「生活のハリを持ってほしい」とA様の利用相談を受けました。

初めて自宅にお伺いした時は、「何の用?」と初めて会う人に疑いの眼差しで見つめている姿が印象的でした。でもご自身の昔のお話になると楽しそうに話され会話が止まらなくなり、A様は人と関わる事は嫌いではない事が分かります。ご本人と初回の顔合わせを終えた後、ご家族と本人の様子について情報交換を行い、今後も継続してご自宅に訪問させていただくこととしました。

さっそく翌日から自宅への訪問が始めました。回数を重ねるうちその時のご本人の様子や言動についてご家族やケアマネと連絡を取り合いました。会話が出来る時間は増えますが、外へ出掛けるきっかけはまだ見いだせなく、あらゆる声掛けでお誘いしても

本人は「行かない」「必要ない」の一点張りです。

しかし、次第に顔なじみになってきた職員。様々なアプローチの中、ご家族とケアマネと検討した結果「顔を合わせた瞬間から最初から約束した事にしてお迎えに来たと言ってみては?」

早速、試してみると「あら、そうだったっけ?」とお出かけする準備をされる姿に娘様と目を合わせ、心の中で「やったー」と大喜びをしました。

以降、週6回欠かすことなく通うことが出来るようになりました。ご本人の利用の様子では、以前の仕事である看護師として「他の利用者の様子をみて頂く」など役割をお願いし一人の職員として「生きがい」を持ち、毎回休まれる事無くスーパーデイに通われるようになりました。

私がみなさんにお伝えしたい事は連れ出すきっかけは些細な事。ただ、その些細な事に辿り着くまでにたくさんの時間は必要です。私達スーパーデイは、そのきっかけ作りの土台になれるようにこれからも連れ出す事が難しいと思われる方達に積極的に関わって行ければと思います。

ポイント!

- ◎利用定員が12名と少ないため、一人ひとりの利用者との密に関わることができる。
- ◎連れ出し困難ケースもあきらめず顔なじみの関係作りを行います。
- ◎認知症についての勉強会をもち認知症ケアの専門性を高めています。
- ◎常時5名から6名の職員を配置しています。

今回の事例はスーパーデイようざん堀口が紹介させて頂きました。

